

経営管理システム

(令和5年2月作成)

事前検討チェックリスト

- ✓ 導入の目的がはっきりしている。
- ✓ データの活用方法を検討した。
- ✓ データ入力を誰が担当するか決まっている。
- ✓ 使用している農機や導入予定農機とのデータの互換性を検討した。

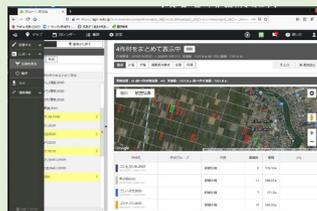
運用中に発生したトラブル事例

- ロボットトラクターのほ場データが通信方式が変わると利用できなかった。
- システムによっては入力できる圃場数に上限があった。

参考：農機API共通化コンソーシアムのホームページ
<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/API/index.html>



導入効果



レポート機能画面の一例。
データ連携により参照できるデータが増えたため、わかりやすくまとめるレポート機能を開発した。

- 農業者が現場で営農管理システムに農作業記録を入力。
- データ蓄積だけでなく、データ連携により、ICT農機からの作業データや人工衛星・ドローンのセンシングの結果がアグリノートに集積されるようになった。
- 連携したデータを見やすく集約し、来期作付につなげる「レポート機能」を新たに実装し、農業者へ提供した。

導入事例については成果ポータルの経営管理システムのページ
https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/gijutsu/portal09.html
をご覧ください。



導入効果が現れない例

- システムによっては対応している農機メーカーが限定されていた。（汎用性が乏しい）
- 農機が複数の経営管理システムと連携できないため、シェアリングすると収穫データ等各経営体へ転送できず、活用が難しかった。